
夫婦間生体腎移植後の夫婦関係満足度調査

佐々木友和、荒木美菜子、伊藤真起子、齋藤眞樹
成田伸太郎*、佐藤 滋**、羽瀨友則*
秋田大学医学部附属病院 第二病棟 2階
秋田大学大学院医学研究科 腎泌尿器科学講座*
秋田大学医学部 腎置換医療学講座**

An Investigation of Marital Satisfaction in Living-Donor Kidney Transplantation between Spouses

Tomokazu Sasaki, Minako Araki, Makiko Ito, Maki Saito,
Shintaro Narita*, Shigeru Satoh**, Tomonori Habuchi*
Department of Urology, Akita University Hospital
Department of Urology, Akita University Graduate School of Medicine*
Department of Renal Replacement Therapy,
Akita University School of Medicine**

<諸言>

今日、ABO不適合腎移植の治療成績改善やドナー不足などの理由に伴い夫婦間生体腎移植が増加している¹⁾。当院においても平成22年度は21件の生体腎移植の中で12件（57.1%）が夫婦間生体腎移植であった。しかし、親子や兄弟など血縁関係間の移植と違い、動機づけや治療後のレシピエントとドナーの関係性に独特な心理が働くと考えられる。渡辺らは夫婦間生体腎移植を施行した夫婦の価値観、目標追及は共通し、安定性、相補性、同一性を有していたとし、夫婦間生体腎移植は核家族としてのまとまりや夫婦関係の支持に繋がると報告している²⁾。また、腎提供はそれまでの家族目標や家族の安定性を取り戻すために行われ、腎移植後も安定した家族関係が続いていたとも述べている。その反面、腎移植後の夫婦には過剰な罪悪感や負積感など、様々な心理的葛藤を抱えることも考えられる。夫婦間生体腎移植を推進する上で、術後の夫婦関係や満足度を評価することは重要であるが、これまでに腎移植後の夫婦関係満足度を客観的に評価した報告はない。

今回、我々は夫婦間生体腎移植後の夫婦を対象に夫婦関係満足度をアンケート形式で調査した。続いて、2種類の自己記入式アンケートの妥当性を検討し、夫婦関係満足度を評価した。また、夫婦関係満足度に影響する因子を探索することを目的とした。

<対象と方法>

1. 対象：平成10年2月から平成22年12月までにA病院で夫婦間生体腎移植を受けた夫婦64組（レシピエント64名とドナー64名の計128名）。

2. 調査方法：これまでに有用性が報告されている諸井の夫婦関係満足度尺度³⁾（資料1）と、海外で広く使用されているShort Marital-Adjustment Test⁴⁾（資料2）（以下MATと略す）の2種類の自己記入式調査票をレシピエント、ドナー別々に郵送し回収した。

資料1 諸井の夫婦関係満足度尺度

以下に日頃のあなたの気持ちや態度にどのくらい当てはまるかを答えてください。4 から 1 のうち最も該当すると思うもの一つに○を付けてください。あまり考えすぎると決められなくなりますから、だいたいの感じ度でできるだけ素早くお答えください。

1. 私たちは、申し分のない結婚生活を送っている。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4. かなりあてはまる | 3. どちらかといえばあてはまる |
| 1. ほとんどあてはまらない | 2. どちらかといえばあてはまらない |

2. 私と夫（妻）の関係は非常に安定している。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4. かなりあてはまる | 3. どちらかといえばあてはまる |
| 1. ほとんどあてはまらない | 2. どちらかといえばあてはまらない |

3. 私たちの夫婦関係は、強固である。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4. かなりあてはまる | 3. どちらかといえばあてはまる |
| 1. ほとんどあてはまらない | 2. どちらかといえばあてはまらない |

4. 夫（妻）との関係によって私は幸福である。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4. かなりあてはまる | 3. どちらかといえばあてはまる |
| 1. ほとんどあてはまらない | 2. どちらかといえばあてはまらない |

5. 私は、まるで自分と夫(妻)が同じチームの一員のように本当と感じている。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4. かなりあてはまる | 3. どちらかといえばあてはまる |
| 1. ほとんどあてはまらない | 2. どちらかといえばあてはまらない |

6. 私は、夫婦関係のあらゆるものを思い浮かべると、幸福だと思う。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 4. かなりあてはまる | 3. どちらかといえばあてはまる |
| 1. ほとんどあてはまらない | 2. どちらかといえばあてはまらない |

資料2 MAT

1. 現在のあなたたちの結婚生活の幸福の程度について、すべてを考慮したうえで、最もよく表している数字に○印をつけて下さい。中央の点の“幸福”は、多くの人が結婚から得る幸福の程度を表しています。そして、目盛は段々に、一方はとても不幸な結婚生活を送っているまれな人々へと、他方は結婚からきわめて大きな喜びや幸福を体験しているまれな人々へと並んでいます。

0	2	7	15	20	25	35
非常に不幸			幸福			完全に幸福

以下の項目について、あなたとあなたの配偶者との間での一致または不一致の程度について示してください。あてはまるところに○印をつけてください。

	いつも一致	ほとんど一致	ほとんど不一致	しばしば不一致	ほとんど不一致	いつも不一致
2. 家計の取り扱い	5	4	3	2	1	0
3. レクリエーションのこと	5	4	3	2	1	0
4. 愛情の表現	8	6	4	2	1	0
5. 友人	5	4	3	2	1	0
6. 性的関係	15	12	9	4	1	0
7. しきたり(正しい, 良い, あるいは適切な行為)	5	4	3	2	1	0
8. 生き方に対する考え方	5	4	3	2	1	0
9. 親戚とのつきあい方	5	4	3	2	1	0
10. 不一致が起こったときには、たいていどうなりますか： 夫が譲る(0)・妻が譲る(2)・お互いに歩み寄ったうえで的一致(10)						
11. あなたと配偶者は家庭外での趣味を一緒にしますか： いつも一緒(10)・少し一緒(8)・ほとんどしない(3)・全くしない(0)						
12. 自由な時間があるとき、あなたと配偶者は： 揃って外出を好む(3)・揃って家にいることを好む(10)・不一致(2)						
13. 結婚しなければよかったと思うことがありますか： しばしば思う(0)・ときに思う(3)・めったに思わない(8)全く思わない(15)						
14. もし、もう一度生まれてきたら： 同じ人と結婚する(15)・違う人と結婚する(0)・もう結婚はしない(1)						
15. あなたの配偶者を信頼していますか： 全く信頼していない(0)・まれにしか信頼していない(2)・ 大抵のことで信頼している(10)・すべてのことで信頼している(10)						

1) 諸井の夫婦関係満足度尺度：諸井(1996)によって報告され、その信頼性が検証されている。6項目から構成され、評点は1点から4点までの4段階である。合計得点は6点から24点の範囲で、得点が高いほど夫婦関係満足度が高いことを示している。

2) Short Marital-Adjustment Test : Lockら (1959) によって作成された夫婦関係満足度尺度であり、海外で最も頻繁に使用されている。結婚生活に対する総合評価である項目 1 (0 から35点) と、夫婦間の意見の一致、共同活動の程度、配偶者に対する満足感、信頼度等を評価する 2~15項目から構成され、夫婦関係の多側面を測定する尺度である。合計得点は 2 点から158点で、得点が高いほど夫婦関係満足度が高いことを示している

3. 分析方法：回収したデータを集計し、点数化した。統計処理はSPSS Ver16.0を用い、基本統計量の算出、t 検定、相関解析 (Spearmanの検定) を行った。p < 0.05を有意とした。合計点を比較する際は欠損項目がある回答は無効とした。

4. 倫理的配慮

対象者に研究目的、方法、調査の協力は自由意志に基づくものであり、いつ中止・撤回しても構わないこと、研究協力を断っても不利益が生じないことを文書で保障した。また、データは統計処理するため個人が特定される事がないこと、データの管理、破棄について説明し返答をもって同意とした。

<結果>

1. 対象者の属性

アンケート送付患者128名中102名より回答が得られた (回収率80%)。平均年齢は60.3歳、移植後の期間の平均は48.8か月であり、移植前の透析期間の平均は5.2年であった。

対象者の属性および背景を表 1 に示す。

2. 夫婦関係満足度尺度の相関

2種類の夫婦関係満足度尺度の関係を無回答のない症例に絞って検討したところ、諸井の夫婦関係満足度尺度とMATの合計点数に有意な相関が認められた (図 1、p < 0.001、R₂ = 0.53)。

表 1 対象者の属性および背景

		N	%
性別	男性	50	49
	女性	52	51
レシピエント/ドナー	レシピエント	51	50
	ドナー	51	50
年齢 (歳)	39以下	2	2
	40~49	5	5
	50~59	31	30
	60~69	57	56
	70以上	7	7
移植後の期間 (月)	36以下	50	49
	37~72	21	21
	73以上	31	30
透析期間 (年)	1以下	14	27
	2~5未満	17	33
	5~10未満	5	10
	10以上	10	20
	未導入	5	10
夫婦の関係	夫→妻	39	38
	妻→夫	63	62
子供の有無	子供有り	89	87
	子供なし	13	13

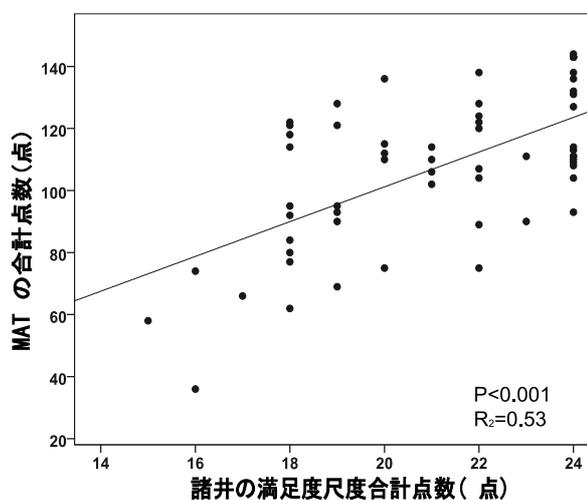


図 1 2種類の夫婦関係満足度尺度の相関

3. 全体の夫婦関係満足度

諸井の夫婦関係満足度尺度の合計点数は平均が20.7点（15～24点）であった。MATの合計点数の平均は106点（36～144点）であった。諸井の満足度尺度は18点以上の高値が92例（95%）、MATの合計点数100点以上が39例（67%）と夫婦間生体腎移植後の夫婦関係満足度は全般的に高い傾向であった。

4. 夫婦関係満足度に影響を与える因子

夫婦間生体腎移植後の夫婦関係満足度に影響を与える因子を探索するため、諸井の夫婦関係満足度尺度とMATの合計得点を性別、レシピエントかドナーか、年齢、移植後の期間、透析期間、夫婦の関係（夫から妻への移植か妻から夫への移植）、子供の有無といった項目に分け比較した。その結果、諸井の夫婦関係満足度尺度において、項目間で有意差を認めなかった。MATにおいては、レシピエントはドナーよりも合計点数が有意に高かった（図2、112.2点vs99.7点、 $p = 0.049$ ）。その他の項目に有意差を認めなかった。

また、レシピエントの中の男女間では諸井の夫婦関係満足度尺度、MATともに性別差を認めないが、ドナーの中では女性が男性よりも諸井の夫婦関係満足度尺度が有意に低かった（22.4点vs19.7点、 $p = 0.012$ ）。また、女性の中ではドナーがレシピエントよりも諸井の夫婦関係満足度尺度が有意に低かった（22.0点vs19.7点、 $p = 0.014$ ）。

MATの問3のレクリエーション、問11の共同活動は主に屋外活動に参与する項目であるが、妻から夫より夫から妻への群で有意に高かった（それぞれ $p = 0.041$ 、 $p = 0.021$ ）。

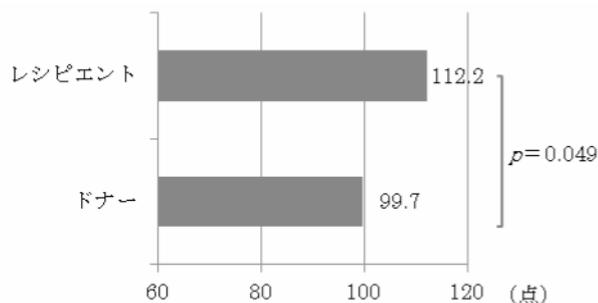


図2 MAT合計平均点

<考察>

今回、我々は二種類の自己記入式夫婦関係満足度調査票を用いて夫婦間生体腎移植を受けた夫婦に夫婦関係満足度調査を行った。2種類の調査票は互いに相関し、夫婦関係の満足度を評価するにあたって妥当であると考えた。諸井の夫婦関係満足度尺度とMATの合計点数はともに高得点であり、夫婦間生体腎移植後の夫婦関係満足度は全般に高いと考えられた。今回の対象と同年代（中年期）の夫婦を対象とした岡本らの研究では諸井の夫婦関係満足度尺度の合計平均点は夫18.96点、妻18.13点であり⁵⁾、本研究の夫婦の合計平均点の方が高い結果が得られた（図3）。しかしサブ解析ではドナーの中で女性が男性よりも諸井の夫婦関係満足度尺度が有意に低く、女性の中ではドナーがレシピエントよりも諸井の夫婦関係満足度尺度が有意に低かったことから、他群と比較すると女性のドナーは若干夫婦関係満足度が低い傾向にあると考えられる。これは特に女性においては、身体に傷を負うということや自分がドナーになって夫をサポートしなければならないという義務感や犠牲感があるため、夫の術後の社会生活、夫婦関係への過度な期待があるためと考えられる。

渡辺らは2例の夫婦間腎移植患者への個別面接から術後家族力動安定の要素として、1) 拡大家

族との間の心理的葛藤がない、2) 移植が夫婦にとって相補的行為である、3) 透析に伴う葛藤を自らの力で解決できる、4) 術後の生活管理がしやすいといったことを挙げている²⁾。これらの要素は夫婦間腎移植のメリットとして重要であり、今回の検討において夫婦関係満足度が高かった理由になっているのではないかと考えられた。

夫婦関係満足度に影響を与える因子に関して、MATの合計得点の平均値はレシピエントがドナーよりも有意に高かった。これは、レシピエントの生活変化に伴うドナーの満足感よりも、長年患った疾患から解放されたレシピエントの方が相手への満足感、感謝の気持ちがより強いことを意味していると考えられる。また、夫婦間生体腎移植において、年齢や子供の存在等これまでに夫婦関係満足度に影響すると考えられた因子は影響を与えていなかった。また、夫から妻に腎移植をしている群において、MATの問3のレクリエーション、問11の共同活動で高い結果が得られた。菅原らは、夫婦と一緒に余暇を楽しめるかどうかは妻にとっては夫への愛情に響くと述べている⁴⁾。腎移植により、夫は妻と余暇を共にできることに喜びを感じ、妻は、夫がレクリエーションを自分と共に行おうとする行動に愛情を感じていると思われる。特に血液透析の施行などにより屋外活動などの制限を受けやすい慢性腎不全患者において、腎移植をすることにより生活を縛られることなく自由に屋外活動等ができるようになることは非常に大きなメリットとなっている可能性がある。

しかし、本研究はいくつかの問題を有する。第一に横断研究であり、移植後の期間も一致していない。同症例における夫婦関係満足度の経時的変化は非常に興味深く、今後の検討課題である。第二に、今回の調査に使用した満足度尺度は作成された年代も古く、現在の夫婦のライフスタイルに適合していない可能性も否定できない。第三に、全症例で移植後腎機能が安定しており、合併症などにより移植腎が低・無機能になった夫婦間移植症例における精神面、夫婦関係の変化も検討していく必要があると考える。

今回の研究で得られた結果は、今後夫婦間生体腎移植を受ける夫婦へ情報提供し、夫婦の間における不安を軽減できるようなサポートをするための重要なツールであると考えられた。

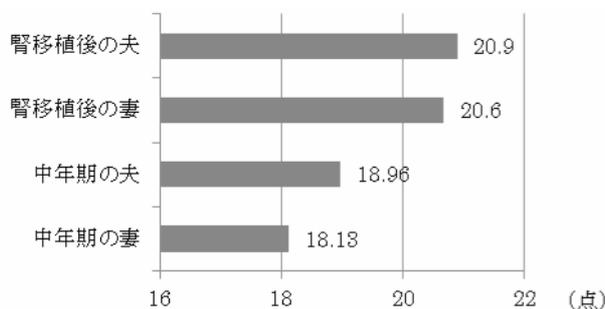


図3 腎移植後夫婦と一般の中年期夫婦の諸井の満足度尺度
(文献との比較)

<結論>

1. 夫婦間腎移植後の夫婦関係満足度調査において諸井の夫婦関係満足度尺度とLockによるShort Marital-Adjustment Testは有意な相関関係にあった。
2. 夫婦間生体腎移植後の夫婦関係満足度は全般に高いと考えられた。
3. レシピエントはドナーよりも夫婦関係満足度が高いと考えられた。
4. 性別、年齢、移植後の期間、透析期間、夫婦の関係（夫から妻への移植か妻から夫への移植）、子供の有無は夫婦関係満足度に影響を与えなかった。

引用文献

- 1) 森義明他：夫婦間腎移植の臨床的検討、日本移植学会誌「移植」vol. 39 No.3：449～555、2004
- 2) 渡辺俊之他：夫婦間腎移植における精神医学的問題、臨床透析 vol. 11 no1：153～157、1995
- 3) 諸井克英：夫婦関係満足尺度 吉田富二雄（編）2001 心理測定尺度集Ⅱ—人間と社会のつながりをとらえる（対人関係・価値観）、149～152、1996
- 4) 菅原ますみ他：夫婦間の親密性の評価—自記入式夫婦関係尺度について—、精神科診断学8（2）：155～166、1997
- 5) 岡本祐子：中年期夫婦における夫婦関係満足度と妻理解・平等主義的性役割観の関連、広島大学心理学研究 第5巻：195～209、2005

参考文献

- 1) 野澤真由美：中年期夫婦における関係の満足度、問題対処、感情との関連、人間文化創成科学論議 第11巻：207～216、2008